

JFLにおけるチーム愛着とシビックプライドについて

スポーツマネジメントゼミナール 1313031 小森 真帆

1. 研究動機・研究目的

Jリーグは「地域密着」を理念として掲げているように、地域社会に根差したプロスポーツの運営が注目されている。現在、Jリーグのチームを応援するファンは活動拠点を自らの居場所として、つながり、きずなといった感情的な結びつきを抱きながら、その地域で活動している。プロスポーツチームの地域密着を理念とした運営は、経済効果をもたらし、チームに安定した経営をもたらすと考えられる。

近年、地域愛着とは異なる意味合いをもつ、シビックプライドというものが注目されている。シビックプライドとは、都市に対する誇りや愛着のことであり、その場所をよい場所にするために、自分自身が何らかの形で関わっていくことである。街を自慢するだけではなく、街を自分のこととして誇りに思うためには、街に少しでも関わっていることが必要である。

現在、チーム愛着と地域愛着の関係性や経済効果については調査されているが、チーム愛着が、自ら街に関わるというシビックプライドとの関係性について明らかにされていない。そこで、本研究ではJFLの試合観戦者のチーム愛着とシビックプライドとの関係を示すとともに、観戦者の地域活動の現状について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2016年10月30日(日)に、アスクラロ沼津のホームである愛鷹広域公園多目的競技場で行われた「アスクラロ沼津 vs ヴァンラーレ八戸戦」の観戦者に対して、学生調査員3名による質問紙の直接配布・回収を行った。総配布数は、293部で、総回収数は278部であった。有効回答数は277部(有効回答率:99.6%)であった。質問紙には、個人的属性に関する4項目、応援チームに関する1項目、応援歴に関する1項目、応援チームのホームでの観戦回数1項目、プロスポーツチームに対する愛着に関する15項目、シビックプライドに関する14項目、お住まいの土地柄に関する1項目、地域活動に関する5項目から構成された。個人的属性については、年齢、性別、婚姻、居住地の4項目で構成した。統計分析はSPSS(Ver.19.0)を用いた。

チームへの愛着項目において、アスクラロ沼津に対する愛着の全15項目の合計得点を算出し、全体の合計得点の中央値によって、中央値より高い得点群をチームへの愛着高群(n=48)、中央値より低い得点群をチームへの愛着低群(n=50)として、2つのグループに分けた。

シビックプライド項目において、Wood, E(2006)に従い、シビックプライドの5段階尺度、全14項目の合計得点により、上位25%をシビックプライド高群(n=30)、下位25%をシビックプライド低群(n=31)、中間の50%をシビックプライド中群(n=39)の3つのグループに分類した。

3. 主な結果と考察

(1) シビックプライドレベルからみたチーム愛着について

シビックプライドの高群・中群・低群に分類した3グループ間におけるチームへの愛着の測定項目についての得点の平均値を分析した結果、チーム愛着の13項目中6項目に関して、統計的な有意差がみられた。シビックプライド低群よりも中群、中群よりも高群の観戦者の方が、アスクラロ沼津への愛着が強いことが明らかになった。アスクラロ沼津応援者は、シビックプライドが高い観戦者ほど、チームや監督のファンであり、チームの地域貢献を認識し、アスクラロ沼津の成功を自分の成功のように捉える傾向が推察された。

(2) チーム愛着からみたシビックプライドについて

チームへの愛着高群と低群の観戦者の2グループ間におけるシビックプライドの測定項目についての得点の平均値を分析した結果、シビックプライドの全14項目において、統計的に有意な差はみられなかった。

(3) シビックプライドとチーム愛着の相関関係

アスクラロ沼津のチームに対する愛着の測定項目とシビックプライドの測定項目の合成得点について相関係数を結果は0.238となっており、統計的な有意差が見られた。このことにより、アスクラロ沼津に対する愛着とシビックプライドの間には、非常に弱い正の相関関係があることが分かった。本調査において、沼津市在住アスクラロ沼津応援者のチームへの愛着とシビックプライドとの関係は、非常に弱い相関関係であるが、アスクラロ沼津は来期からJ3に昇格し、プロチームとして歴史を長く築くことにより、チームへの愛着とシビックプライドの関係性は変化してくると思われる。

これらの分析により、アスクラロ沼津への愛着がシビックプライドに影響を与えるのではなく、シビックプライドがチームへの愛着に影響を与えることが明らかになった。

4. 結論

シビックプライドによって、チームへの愛着が変化することが明らかになった。これは、チーム愛着と地域愛着に関する二宮(2011)の研究とは異なる結果となった。また、沼津市は住み心地が良いと思う観戦者が多く、そのため地域活動に参加している人が多いと考えられる。アスクラロ沼津の応援者は、静岡県東部地区に初のJクラブの誕生という目標のために応援活動をしたり、アスクラロ沼津のホームタウン活動(小中学校訪問・地域イベントの参加)により、地域貢献を認識したり、地域一丸となってアスクラロ沼津を応援しているのだろう。アスクラロ沼津のファン獲得方法は地域活動を通して得ているのだろう。本調査を通して、アスクラロ沼津のファンはチームが好きだから地域に貢献しようという考えではなく、沼津を活性化させたいなどの行動の一つにアスクラロ沼津の応援活動が含まれるのではないかと考えられる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の作成にあたり、多くの方にご協力頂けたことに感謝申し上げます。調査に協力していただいたアスクラロ沼津の職員の方、調査依頼に協力してくださった方、共に励みあったゼミ員、そして最後にとても丁寧にご指導してくださった工藤先生。自分が好きな分野について、卒業論文という形で研究できたことを嬉しく思います。